

授業科目名	発達心理学A（初等）(2100103)		
時間割名	発達心理学A（初等）(14104)		
時間割担当	高木悠哉		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	月・4		

授業の目標・概要

人間は、生きていく過程で心理的、身体的に、様々な変容を遂げます。このような生涯にわたる人の変容過程は発達と呼ばれ、従来から心理学の多くの研究知見が存在します。本講義では、特に生まれてから小学校までの発達過程に重点を絞り、発達心理学分野における基本的な知見を概観します。

学習の到達目標

本講義では、発達という概念を理解すること、発達心理学の研究手法を学習すること、特に小学校までの子どもの発達心理学の基本的な研究知見についての知識を修得することを目標とします。また、小学校教員を目指す上で、子どもの発達を科学的に捉える視点の基本を学習します。

授業方法・形式

1. それぞれの学習テーマに対して、パワーポイントおよびレジュメを活用しながら授業を進める。
2. 必要に応じて、取り上げるテーマに関するディスカッションを行う。

授業計画

- 第1回 発達心理学の意義
発達心理学的知見が、教育学、社会学、認知科学に及ぼした影響についての歴史を修得する。
- 第2回 発達とは何か
発達について定義し、生涯発達の考え方を学習する。成熟、学習、成長と発達の差異を理解する。
- 第3回 発達心理学の研究法（1）
実験法、調査法、面接法の概要と、データ取得法の差異について理解する。
- 第4回 発達心理学の研究法（2）
縦断的・横断的研究の差異について理解する。コホート分析、双生児法を学び、それら研究知見を修得する。
- 第5回 発達段階説（1）
ピアジェによる発達段階説について学び、人間発達を年齢でどのように区分するかを理解する。
- 第6回 発達段階説（2）
エリクソンによる発達段階説について学び、人間発達を年齢によりいかに区分するかを理解する。
- 第7回 乳児期の発達の特徴
乳児期に見られる認知的、身体的、言語的な発達の流れを学び、その特徴を理解する。
- 第8回 児童期の発達の特徴（1） 中間試験
小学生の研究を中心に社会性（仲間意識や社会的勢力）、認知・知能的発達について学ぶ。
- 第9回 児童期の発達の特徴（2）
小学生の研究を中心に自己概念、自己意識の発達について理解する。
- 第10回 児童期の発達の特徴（3）
学校現場で実施される様々な発達心理学的ワーク、スキルトレーニング（学校給食と食育）を学ぶ。
- 第11回 青年期の発達の特徴
大学生の研究を中心に、自己、セルフコントロール、メタ認知の研究から青年期の発達過程を学ぶ。
- 第12回 成人期の発達の特徴
社会生活を送る上で、組織論的観点から、自己、他者影響力の発達について学ぶ。
- 第13回 発達心理学、実験調査実習（1）
児童期の研究テーマを1つ選択し、先行研究をまとめ、小学校現場での研究計画を立案する。
- 第14回 発達心理学、実験調査実習（2）
研究計画を参照に、取得したデータ（架空の予測データ）に従い、各グループで発表、議論する。
- 第15回 授業の総括として、これまでの授業内容をまとめ、試験に向けた質疑応答を行う。

成績評価の基準

講義間で学生が自宅で行う予習レポートと毎回の小レポートを中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく。（20%）
14回目の講義の発表の緻密さを評価する（20%）。中間試験において授業の理解度を確認する（20%）。さらに学期末テストにおいて総合的な理解を確認する。（40%）

準備学習・復習及び授

予習：講義の最後に次回の授業の資料を配布する。次週までにA4で1枚にまとめ、授業に出席すること。
復習：毎回の講義の最後に小レポートを行い、その結果および点数を講義ごとに返却する。必ず再度見直し、試験に備えること。

履修上のアドバイス及

講義時間内にお伝えします。

教材・教科書

テキスト・参考書：授業中に指示する

参考書

テキスト・参考書：授業中に指示する